

農業振興課主任 齊藤 大貴



りんごの生育状況

ふじの肥大は、管内平均で62.0mmとなっており、昨年よりも8.9mmほど小さく推移しています。また、平年値と比較した場合は1.3mm下回っています。

乾燥している場合は灌水も！

8月1日現在では、高温・乾燥の日が続いています。果実の日焼

表1：管内の品種別りんご肥大状況（8月1日調査）

品 種	横径（単位：ミリ）					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨年比	昨年比
ふ じ	66.4	57.7	62.1	62.0	87.4%	97.9%
王 林	61.9	52.3	61.0	58.4	89.2%	94.3%
つがる	64.8	67.7	71.0	67.8	92.2%	96.9%

※平年値は過去10年間平均値

け防止の観点から、高温時の支柱入れ等は避けましょう。また、苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいため、乾燥している場合は灌水を行いましょう。

りんご作業（8月15日～9月15日）
過度な葉摘みをしないように！

過度な葉摘みや玉回しは、果実の日ヤケ・軟質化に繋がるため注意して下さい。尚、極早生品種をはじめとする本年産りんごの収穫も始まってきました。消費者へ本来の食味を届けるため、鮮度重視の適期収穫をお願いします。

枝折れに注意！

果実肥大とともに枝が垂れ下がってきます。支柱がしっかりと設置されているか再度確認しましょう。また、枝を上げすぎると日ヤケ果の原因となるので注意して下さい。

ツキノワグマに注意！

1人での作業をできるだけ避け、ラジオをかけるなどして対策にも取り組んでください。

水稲について

登熟期に入ります。高温時には時々水の入替えを行い根腐れ防止に努め、低温時は深水にして登熟促進に努めて下さい。

カメムシ被害軽減のため、9月に入るまでは畦畔の草刈りを実施しないようにして下さい。また、刈取前には、早期の落水を行わないようにして下さい。

●薬剤の使用基準一覧

殺菌剤	収穫前日数	年間使用回数	殺虫剤	収穫前基準	年間使用回数
※ダイパワー	前日	開花期以降3回	サイハロン（水）	7日	3回
ストライド（顆水）	前日	3回	イカズチWDG	前日	2回
オーソサイド（水）	前日	6回	フェニックスF	前日	2回
※ベフラン（液）	前日	開花期以降3回	エクシレルSE	前日	3回

※ダイパワーとベフランは開花期以降、合計3回まで

●りんご病害虫防除暦（第11～12回目）

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
11	500 μ ℓ	8月下旬	ダイパワー（水） イカズチWDG カルシウム剤	1,000倍 1,500倍	シンクイムシ類の食入防止の為、ピレスロイド剤を使用すること。
12	特 散 500 μ ℓ	9月中旬	ストライド（顆水） 又はオーソサイド	1,500倍 800倍	前回からの散布間隔が開きすぎないように注意する。尚、ストライド（顆水）は高温時に散布すると薬害を起こす可能性があるため注意する。

注）9月中旬の特別散布が9/10よりも早い場合、再度特別散布を実施する（薬剤散布最終目安：9/15頃）。



7月10日、青年部は、長慶閣においてに青年部合併60周年通常総会・記念式典が開催されました。

総会は、全議案が可決され、スムーズに進められることができました。

今回は役員改選も行われたため新体制を迎えての記念式典となりました。

式典では、農協役員を含む来賓のほか、直近10年で青年部部长を務めた歴代部長や青年部事務局を担当した職員もおり、懐かしい顔



ぶれで参加者は57名となりました。

式典では、(株)原田種苗販売課長の工藤隆樹氏による「近年の苗木の販売状況と品種における今後の展望」というテーマで記念講演をお願いし、過去10年の青年部活動の思い出をスライドショーで振り返りました。

合併60周年を迎えた青年部は、現在部員が30名で活動しています。今後、部員数が徐々に減少する可能性もありますが、その中でも地域農業への貢献や事業活動への積極的な参加を続けていきたいと考えていますので、今後とも青年部をよろしくお願い致します。

